

令和4年度 学校法人静岡理工科大学 星陵中学校・高等学校 自己評価 学校関係者評価

どのような学校を目指すのか	校訓「誠実な心でことにあたる 友情の和を広げる 厳しさを自ら求める」の実践をとおし、比較優位性の高い「選ばれる学校」となる。		
基本方針	1 時代が求める教育を展開する 2 地域有数の進学校となる 3 学働力を集結させる 4 高大連携、高専一貫教育を推進し、法人内学校との連携を深める 5 健全な運営体質を維持する		
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	本年度重点施策	達成状況
◎健全な運営体質を維持するため、目標定員を確保した ◎学働力を集結し「認知・非認知能力」の両面を育成した ◎教育活動において、アジャイル型PBLを展開した ◎21世紀型教育を展開し、地域社会に貢献した ◎進学校として地域から評価される実績をあげた ◎時代が求める教育を展開し、交際の人材を育成した ◎誰もが安心して学べる環境を整えた	【入口目標】「募集定員を充足し、地域のニーズに応える」 【中身目標】「SDGs第3段階（複雑性の理解）」の実践 S×P教育（STEAM教育+PeerLearning+PBL）の展開 「Global教育」「Ed-Tech教育」の展開 「地域連携教育（教育セミナー）」の展開 「生きる力を育む教育（＝21世紀型教育）」の展開 【出口目標】「文理バランスの取れた人材の育成」	・健全な運営体質を維持するため目標定員を確保する ・進学校として地域から評価される実績をあげる ・「生きる力を育む教育」のためS×P教育を展開する ・学働力を集結させた教育を展開し、地域社会に貢献する ・教育活動において、アジャイル型PBLを実践する ・学園の発展に貢献するため、調査・分析を展開する ・誰もが安心して学べる環境を整える	※評価は、以下の基準に従い、各項目ごとに5段階で客観的に評価してください。 5 : 最も良好 4 : ほぼ良好 3 : 普通 2 : やや不良 1 : 不良

評価項目	具体的目標	具体的方策	自己評価		成果・次年度への主な課題	学校関係者評価							平均
			評価	平均		評議員A	評議員B	評議員C	同窓会	地域住民	地元企業関係者	教育関係者	
総務部	健全な運営体質維持のため、目標定員を獲得する。	募集活動やイベントの目的を明確にし、計画的に実施した。	4	4.0	募集イベントの検証を次回・次年度につなげる。	5	4	4	5	4	4	5	4.4
	学ぶ環境・働く環境の整備を推進する。	観点別評価を研究・分析し、受験者層と受験者数の把握に努めた。	4		観点別評価と実際の学力との関係を分析する。								
入試広報課	学則定員である高校400名、中学60名の生徒を獲得する。	新型コロナウイルスや災害から生徒・職員を守る対策を講じた。	4	4.0	連絡が徹底できるように、連絡ツールへの登録徹底を促す。	5	4	4	5	4	4	5	4.9
	コンプライアンスに基づき「教員研修」「アンケート」「啓発活動」を遅滞なく行うと同時に星陵オリジナルの式典・行事を実施する。	富土地区内にとどまらず地区外に向けても広報を展開した。	4		地域貢献の観点から地域とのかかわりを深めていく。								
総務課	「星陵独自の図書コーナー」を構築する。生徒の学問・進路選択に役立つ書籍・場の提供。	式典・行事について状況により対応、生徒・保護者に満足されるよう実施した。	4	4.0	式典の形式を対面とオンラインで状況に応じて実施する。	5	4	4	5	5	4	4	4.4
	「星陵独自の図書コーナー」を構築する。生徒の学問・進路選択に役立つ書籍・場の提供。	災害に備え、避難経路の確認や災害時安否情報システム（ANPIC）の運用管理を行った。	4		あらゆる災害を想定して生徒・職員の安全を確保していく。								
図書課	「星陵独自の図書コーナー」を構築する。生徒の学問・進路選択に役立つ書籍・場の提供。	図書委員による資料管理・貸し出しのシステム構築に動めた。	4	4.0	図書委員との活動をより立体的に行う。	5	4	4	5	4	4	4	4.3
	「星陵独自の図書コーナー」を構築する。生徒の学問・進路選択に役立つ書籍・場の提供。	図書報「群青」の編集・作成をした。	4		星陵流の読書へのアニメーションを創造していく。								
管理課	校内備品を充実させると同時に、施設内の管理を徹底し、充実した学校生活を送れるようサポートする。	清掃用具や学習に必要な備品の補充・準備を行った。	4	4.0	椅子・机を新調し、学習環境の改善を進める。	5	4	4	5	4	4	5	4.4
	校内備品を充実させると同時に、施設内の管理を徹底し、充実した学校生活を送れるようサポートする。	ICT機器の設定、修理を行い、教育活動が滞ることが無いよう準備した。	4		感染予防対策として備品の補充を引き続き行っていく。								
教務部	SDGs（第三段階）達成のためにSTEAM教育を重視し、PeerLearningを中心としたPBL（アジャイル型）授業を展開する。	思考コードを活用したPBL型授業の研鑽を推進した。	4	4.0	アジャイル型PBL授業の回数を増加していく。	5	4	4	5	4	4	4	4.3
	SDGs（第三段階）達成のためにSTEAM教育を重視し、PeerLearningを中心としたPBL（アジャイル型）授業を展開する。	総合的な探究の時間・星陵ラボ・SEIプログラムにてSTEAM教育を実践した。	4		星陵ラボ・SEIプログラムの参加者増加と内容の充実を図る。								
教務課	新課程および観点別評価を導入し、新たな評価体制の構築と、新学習指導要領に基づいた学習指導の改善を図る。	観点別評価の運用過程により顕在化した課題を分析し、改善策を検討した。	4	4.0	学習評価、指導方法を見直し、授業改善を図る。	5	4	4	5	4	4	4	4.3
	新課程および観点別評価を導入し、新たな評価体制の構築と、新学習指導要領に基づいた学習指導の改善を図る。	年間学習計画を作成・検証し、観点別評価と学習指導の一体化を確立した。	4		各教科の年間学習指導計画を検証し、教科指導力向上を図る。								
教育相談課	生徒の健やかな発育と健全な登校をサポートする。	カウンセリングをとおして、生徒の学校生活改善をサポートした。	4	4.0	カウンセラー補充によるカウンセリングの充実を図る。	5	4	4	5	4	4	4	4.3
	生徒の健やかな発育と健全な登校をサポートする。	教員への情報提供や生徒に対する助言を行った。	4		生徒と直接関わる担任を支えることで、生徒の補佐を図る。								
21世紀型スキル推進課	SDGs（第三段階）を踏まえた探究活動とSTEAM教育を星陵ラボの活動を通じて推進する。法人内大学、専門学校と連携した教育活動を展開する。	5つの研究班を設定し、テーマに応じて継続的な探究活動を実施した。	4	4.0	星陵ラボの探究活動を社会の変化に即して深化させる。	5	5	4	5	5	4	5	4.7
	SDGs（第三段階）を踏まえた探究活動とSTEAM教育を星陵ラボの活動を通じて推進する。法人内大学、専門学校と連携した教育活動を展開する。	高大・高専プログラムを運用し、適時内容の見直しを行った。	4		法人内連携教育を生徒のニーズや時代に合わせて見直しを行う。								
グローバル教育推進課	コロナ禍における星陵グローバル教育の充実および拡充を図る。	SDPコンテンツ、SEIプログラム、海外提携校・外国人講師とオンライン交流を実施した。	4	4.0	SDGs×STEAM教育で各種プログラムを更にいっしょにさせる。	5	5	5	5	4	5	5	4.9
	コロナ禍における星陵グローバル教育の充実および拡充を図る。	国際フォーラム及び模擬国連大会、英語ディベート県大会に出場した。	4		全国大会および世界レベル大会出場を目指す。								
教科	国語	論理的思考力を育てる言語活動を含む授業実践を行った。	4	4.0	新課程大学入試共通テストに対応した授業の検討・実践を行う。	5	4	4	5	4	4	5	4.4
		現古漢横断型の授業を検討し、総合的な国語力の向上を図った。	4		生徒の主体性や表現力をはぐくむ授業計画・評価を検討する。								
	地公	歴史総合・公共を軸に3か年の歴史・公民分野の授業計画を策定した。	4	4.0	「地理総合」を軸に地理分野の3か年学習計画の策定を行う。	5	4	4	5	4	4	5	4.4
		知識に偏らず思考力・表現力を高める授業実践と評価方法の開発を行った。	4		探究科目に即した深い学びの教材開発と入試対策の研究を行う。								
	数学	中高3か年シラバスの検討と、共通テストの分析を行った。	4	4.0	共通テスト問題からカリキュラムや評価方法を検討・実践する。	5	4	4	5	4	4	5	4.4
		新評価方法について施策を行い、教科としての授業方法を思索し実践した。	4		大学入試問題を分析することで教科指導力を高める。								
	理科	定期的に実験を行い、データの解析や理論値との差異を話し合った。	4	4.0	引き続きICTを活用し、PBLを意識した授業展開を行っていく。	5	4	4	5	4	4	5	4.4
		授業中にロイノートやClassiを活用し、課題や動画配信を行った。	4		実験を定期的に取り入れ、新課程に即した教材研究を行う。								
	保体	Peer Learningを実践し、生徒の思考、判断、表現力の向上を図った。	4	4.0	ICT機器を活用し、技術の習得に努めた。	5	4	4	5	4	4	5	4.4
		各単元で、主体的・対話的な学びに繋げる授業を展開した。	4		単元を通した指導計画を立て、課題解決型の授業を展開する。								
	美術	ICT機器を活用することで、課題把握・主体的姿勢の向上を図った。	4	4.0	課題把握や技術面を向上させるICT機器活用が推進できている。	5	4	4	5	4	4	5	4.4
		生活や社会の中の美術文化と関わるような題材設定の工夫をした。	4		地域社会と美術で繋がるような題材設定をさらに推進したい。								
書道	古典臨書を通して、時代性、多様性を学び、様々な書法を習得した。	4	4.0	様々な古典臨書から自筆、創作への学習姿勢を育成する。	5	4	4	5	4	4	4	4.3	
	実社会で行われている書式や様式について理解し書写力を高めた。	4		書写能力向上、行書体の鍛錬、リズムと構成の体得に努める。									
英語	アクティブラーニングを取り入れた授業実践により思考力表現力を高めた。	4	4.0	ICT機器を利用して新学習指導要領に対応した英語力を育成する。	5	4	4	5	4	4	4	4.3	
	英語4技能の育成の基礎学力向上かつ活用可能な授業づくりを行った。	4		インプット、アウトプットを取り入れ英語総合力の向上を図る。									
家庭	生活の充実向上を図る能力と実践的な活動を行った。	4	4.0	家庭生活に必要な技能を実践的・体験的に学習活動を行う。	5	4	4	5	4	4	5	4.4	
	家庭や地域の生活課題を主体的に解決する力を身に着けた。	4		生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図る。									
情報	オープンデータを活用した実習を通して包括的・実践的な学びを推進した。	4	4.0	実社会での活用場面を想定した情報デザイン力を身に付ける。	5	4	4	5	4	4	5	4.4	
	プレゼンテーションの実習を通して主体的に情報を活用する力を高めた。	4		弾力的な実習によりプログラミング的発想力・思考力を培う。									

指導部	総合型選抜入試・学校推薦型入試の方向性を分析し、よりの確かな指導で進学実績向上を目指す。	教員研修を通して全国のレベルを認識し、さらに星陵としての武器を備えた。	4	4.0	研修等で得たノウハウや考え方をいち早く実践に活かす。	5	4	4	5	4	4	4	4.3	
		ICT機器やソフト、アプリの活用をより効果的なものにする研究を進めた。	4		新たなアプリ活用について導入前から研究を進める。									
		難関大学に挑むための指導方法についての研鑽を深めた。	4		令和7年度入試も視野に入れた新課程世代への指導をしていく。									
大学進学指導課	コロナ対策、ポストコロナも見据え、学校行事等に対するあり方を見直す。	コロナの感染状況の変化に合わせて柔軟に感染に備えた。	4	4.0	関係機関のコンプライアンスに則った運営をする。	5	4	4	5	4	4	4	4.3	
		ポストコロナに向かい、行事の在り方・その実施方法を計画的に検討した。	4		GW後行事について実施方法を常より早めに要項を作成する。									
		質の高い授業・進学講座を行い「知識に加え思考力を養う授業」を展開した。	4		総合型選抜・学校推薦型選抜に対し、積極的な出願を指導した。									
進路課	進学校として評価される進学実績を出すことを一番の目標とする。新大学入試制度に対応した受験指導を展開し、進学校としての絶対的地位を築く。	多くの入試情報を活用し、多様な選抜方式に対応した進学指導を行い結果に繋がった。	4	4.0	共通テスト分析会を教科毎に実施し、指導上の意思疎通を図った。	5	4	4	5	4	5	5	4.6	
		一般選抜に於ける個別指導体制を充実させ、進学実績の向上に繋がった。	4		受験情報に敏感に反応し、私学ならではの進学指導を展開していく。									
		企業訪問を通して情報収集に努め、求人数を確保した。	4		早期に企業から情報を集め、雇用状況を確認する。									
生徒指導課	学校推薦による就職内定率を100%にする。高専講座の魅力アピールし、法人内専門学校への入学者数を増やす。	進路説明会を通して法人内専門学校の情報を生徒・保護者に伝えた。	4	4.0	LHRや三者面談等で法人内専門学校への誘導に努める。	5	4	4	5	4	4	5	4.4	
		生徒が主体的に活動できるようにし、明るく楽しい学校をつくる。	いじめ防止対策推進法に対応し、問題行動やいじめの早期発見・解決を図った。		4									法に基づき、先生方と協力しながら組織的な対応を行った。
		生徒の安全を図るため、情報を収集し、校外指導を行った。	4		一人一人の言動の背景に気を配り、生徒理解に努める。									
保健体育課	学校全体のコロナ感染防止対策を先導し、新型コロナウイルスから生徒・教職員を守るため常に安全に配慮した活動を行う。	感染症など起こり得ることに對して校内の環境整備を行った。	4	4.0	学校行事や健康診断等の時期や施設の点検方法を再検討する。	5	4	4	5	5	4	5	4.6	
		委員会活動や部活安全管理簿をととして感染対策の意識を高めた。	4		各教室、体育施設の換気・消毒をアナウンスし、健康への意識を高めた。。									
		PBL・PeerLearningの授業展開を目指した。	4		コロナの影響を受けない行事変更を検討する。									
中学部	従来型学力の育成と、美育（探究学習）による非認知能力の育成を進める先端教育を実施する。	美育の土台にSDG sを置き、STEAM教育の実施を目指した。	4	4.0	中学教育と総合型・学校推薦型選抜の関係性を強化する。	5	4	4	5	4	4	5	4.4	
		新課程共通テスト・大学入試に向けての基礎作りを実践する。	新課程共通テストの情報収集に努め、情報を共有した。試作問題の分析をした。		4									共通テスト「情報Ⅰ」の情報収集及び授業の中での対策に取り組む。
		生徒個々に寄り添った丁寧な進路指導を実践し、生徒の長所を生かす受験計画を見出し、受験への準備を進める。	基礎学力の定着を図るための指導を実践し、生徒個々の活動実績をまとめさせた。		4									スタディサプリを有効に活用し、学力の向上及びSDGs探究活動の内容を深める。
高校1年部	生徒個々に寄り添った丁寧な進路指導を実践し、生徒の長所を生かす受験計画を見出し、受験への準備を進める。	選抜方法に対応した受験指導を、個別対応を重視しながら実践した。	4	4.0	探究活動や課外活動などを検証し、次年度への課題を明らかにする。	5	4	4	5	4	4	5	4.4	
		校外模試を分析して、教員間の連携を図りながら成績の向上に努めた。	4		受験結果を分析し、生徒個々の受験計画を指導する。									
		個々が希望する進路に対する丁寧な進路指導を展開し、生徒の進路目標を達成する。進学校としての確固たる地位を確立する。	最新の進路情報を収集し、分析を進め受験指導を行った。		4									今年度の大学入試の分析を進め、その反省点を次年度に確実に伝達し、来年度以降の進路指導に活かしていく。
高校2年部	個々が希望する進路に対する丁寧な進路指導を展開し、生徒の進路目標を達成する。進学校としての確固たる地位を確立する。	最新の進路情報を収集し、分析を進め受験指導を行った。	4	4.0	今年度の大学入試の分析を進め、その反省点を次年度に確実に伝達し、来年度以降の進路指導に活かしていく。	5	4	4	5	4	4	5	4.4	
		総合型・学校推薦型・一般選抜それぞれの入試形態に合わせ生徒の伸長を図った。	4											
			4											
平均				4.0										4.4

## 評価委員のコメント

・令和4年度の重点目標と施策から、パラダイムシフトに際し、生徒たちの将来にとって本当に必要な力を育むという、本校の強い意志をはっきりと読み取ることができます。特に、「生きる力を育む教育（＝21世紀型教育）」の展開については、今後の世界や地域社会に於いて、これまでの価値観やシステムが不変であり続けることはなく、新しい環境に応じてそれらを創造、調整していくが必要になるのを予測し、目標としたものでしょう。S×P教育を採用し、生徒たちに一方的に知識や解を教えるのではなく、仲間たちと切磋琢磨し、自我をぶつけ合うことで身につける多様な「知」を組み合わせ、問題を解決し、新たな価値の創造を行うことで、やがて社会に出る生徒たちは、本当の「生きる力」を身につけることができます。

学校に限らず、多くの組織や人々が、今後、訪れる世界の変化を現実のものとな捉えることができず、未だ従来の価値観や仕組みに囚われ続けながら生きていることを鑑みれば、本校の先見性と実行力、生徒たちの将来への期待と責任感には、とても感心させられます。

良い学校に進学することや、良い会社に入社することは、生徒たちにとって大変重要なことであり、また、それにより学校が評価を受けることも事実です。その点でも、本校の実績は高い評価を得るものです。しかし、この地域における星陵中学校・高等学校の本当の価値と存在意義は、本校に学ぶ生徒たちが世界中で活躍し、また地域創生、再生を担うリーダーとして尽力し、平和と、人類のより豊かで幸せな暮らしの実現を可能にする教育の提供にあるのだと思います。本年度の重点目標、施策の実践は、その存在意義をしっかりと感じ、果たすものであり、本校がこの地域に於いて唯一無二の存在であることを明確に示すものでしょう。星陵を巣立ち、夢の実現に向かって、明るく元気いっぱい生きる子供の姿を目にし、素晴らしい学校に学ばせていただいたことを、あらためて感謝いたします。星陵を巣立ち、夢の実現に向かって、明るく元気いっぱい生きる子供の姿を目にし、素晴らしい学校に学ばせていただいたことを、あらためて感謝いたします。私も、本校からたくさんのことを学びました。経営する零細企業を、地域になくてはならない会社にしていくために、学びを実践していきたいと思ひます。ありがとうございます。

・自転車通学の生徒について、交通マナーが大変良いという意見が地域の見守り隊の会議で出された。

・令和4年度もコロナ禍の中、生徒の皆さんの学校生活見直し、先生方、学校の対応と今までの環境とは一変してしまったと思います。これからの世の中はコロナ以外にも様々な感染や災害などの対策に気を配っていかなければならない時代となってきました。学校での行事が思うようにできなかったり、集団行動の制限があったりと、このコロナ禍で人との対話が減ってきてしまいました。今では携帯電話が1人1台となり、メールやラインで簡単に相手と通じることができますが、「発する言葉」「受け取る言葉」もお互いの信頼関係が土台となって理解し合えると思ひます。これから少しずつ以前に戻りつつあります。生徒の皆さんが、これから進学や社会へ出て、新しい道に進んだ時、新しい人間関係をどう築いていけるかが大切になると思ひます。できる限り、星陵中学校・高等学校の生活の中で、人対人のコミュニケーション能力を見つけていただきたいと思ひます。

・新型コロナ禍が長引く3年間で、各種大会や会議等が規制されコミュニケーションをスムーズに行う事が出来ない状況下でした。本年に入り徐々に収まりを見せている状況の中で、「Withコロナ」との取り組み方は様々な対応がなされ、社会経済や仕事・学業など大きな変革を辿りましたが、星陵中・星陵高校はいち早い対応で、大きな支障もなく学校運営やカリキュラムの推進が図られました。学校訪問や星陵祭等の外部との交流は感染防止対策の為、多くはありませんでしたが、文化・スポーツに於いて生徒の活躍は新聞等にも掲載され高い評価を受けられたと思ひます。授業に関しても、基本重点施策は十分に理解され活用されていると思ひますし、個性を生かした立派な成績を上げられ、幾つもの表彰を受けています。学校方針として、生徒の可能性や新たな時代に相応しいグローバル教育目標を定めていますので、教養と人間の育成・個性を活かす教育ができていくことに評価を致します。この3年間は、コロナや紛争の為、世界経済が大きく揺らぐ事となり、学校行事にも少なからず影響があったと思ひますが、学校側の方針や諸先生方の熱心な指導により、生徒は安定した環境の中で、学業や部活動に専念出来た事を感謝申し上げます。今回の様に予想されない事態の中でも、今まで学んだ学習を基に自宅に於いてもPBL型授業の実践、そして活用する事により、この結果が進学や就職、に表れ「生き抜く力」となっていくものと思ひます。大きく変化する時代の中でこれまでと同様に、先生方の指導力と教育方針、方向性を見極めて行って頂けるよう期待をしております。